

古代ギリシア悲劇 アイスキュロス作

紀元前472年 初演



～あらすじ～

時代は紀元前5世紀初め、ペルシア帝国は命運をかけた決戦をギリシアに挑んだ。若き大王に率いられた兵士たちは、都スサを発ちギリシアに向け出撃。ギリシアを遥かに上回る、空前の規模の大遠征軍であった。都には、勝利の知らせを待ち焦がれる、老人と女子供が残された。

ある日人々の前に、亡きダレイオス大王の後、現大王の母アトッサが宮廷から現れる。彼女は不吉な夢を見たことを人々に語る。皆が不安に駆られるなか、あれほど待ち焦がれた戦地からの伝令が現れ、ペルシア軍の大敗北を告げる。激しく動揺する一同を前に、アトッサは決断する。降霊術師を使い、亡き大王ダレイオスの霊を呼び出す。ダレイオスの亡霊は、何を語るのか？

やがて一人生き延び帰還する、敗残の大王セルクセスは、戦地で何を見、何を語るのか？

現存する古代ギリシア悲劇中、最古の作品にして、歴史的事実を扱った数少ない作品がここに蘇る。

■2018年度 獨協クラスのあゆみ

制作委員を中心に、第11代 獨協クラスとして『ペルシア』を上演することを決定し、脚本の執筆にとりかかりました。それと同時に、クラス内オーディションを行い、配役を決定。夏休みから本格的な練習に入りました。時間をかけて発声練習など基礎練習を行い、8月下旬からは舞台での練習も行っています。練習の合い間に衣裳・小道具も、23名で協力して行っています。

蛙鳴祭での上演に向けて、卒業論文の執筆とともに、練習に励んでいますので、是非、見に来てください！

